

近森病院附属看護学校



平成28年4月6日 第2期生の入学式を行いました

近森病院附属看護学校
副学校長 尾原 喜美子



あたたかい春の日ざしのもとで第2期生の入学式を行いました。少し緊張した面持ちの新入生43名は、医療・看護の世界へと第一歩を踏み出しました。昨年の開校から早くも1年が過ぎ近森病院附属看護学校の学生数は80名を越えました。新入生代表の力強い

宣誓は、これから看護師になることへの覚悟をうかがうことができ、また未来の医療や看護への希望と期待を与えてくれました。

入学生が近森病院屋上から放ったバルーンリリースによるオレンジ色の風船は、今日の佳き日を祝福するかのよ

うに高く高く飛び立っていきました。専修学校への認可も平成28年3月に高知県から得ることができ看護学校としても軌道に乗ってきました。今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

おはら きみこ



新校舎（オルソン病院跡地）への
引越告知：5月14日（土）15日（日）
授業開始：17日（火）～

透析療法の最近の状況について

近森病院透析科・腎臓内科

科長 吉村 和修



血液透析療法は日本では1967年に初めて保険適応になり、1972年にさらに費用負担が軽減されることになり一般的な治療法となっていくます。

当初は体液コントロールが技術的に難しく透析中に突然亡くなるようなことも少なくなかったようです。このころのようすが「透析をするとすぐ亡くなる」という患者さんのイメージをつくったのだと思います。その後技術の進歩が進み長期の生存が可能となっていくます。

そして透析医療のテーマは開始後の長生きだけでなく、生活の質の向上のため長期合併症への対策が中心となっていくます。しかし最近はどうもずこし変わってきています。それは高齢化の問題です。

私が医師になった1996年に透析を始められる方の平均年齢は61.5歳

であった透析患者さんの平均年齢は、2014年には69歳となり、また、透析を開始する時の最も多い年齢層が男性では75歳から79歳、女性では80歳から84歳までとなっています。

つまり透析を始める時点で最多の方が後期高齢者です。このことは透析開始時点でたくさんの合併症をもち、体力の低下や認知症を認める場合が少なからずあることを意味します。このような状況になんとか対応して行かねばならないという問題が現在の透析、または腎不全に対する医療の大きなテーマとなっています。

よしむら かずのぶ

5月の歳時記

矢車菊

近森病院総合心療センター
デイケアメンタル 看護師
伊井 五十鈴



花言葉は優美・教育・信頼など。青い花のなかでも最も完全な青と評価される矢車菊。鯉のぼり先端の矢車に似ている事から名付けられました。

地味な花ですが田舎の畑に色とりどりに咲いていたのを思い出します。この時期は、山々の新緑がまるで大きなブロッコリーのようにも見え、矢車菊の青の様な空とのコントラストが鮮やかで気持ちが良くて大好きな季節です。

いい いすず

絵・筆者



PS 通信

平成 28 年度入職者への事前指導を終えて

外部講師による新入職員基本研修の前に挨拶と身だしなみの事前指導をPSサポーターが行って3年目となりました。今ではPSサポーターも成長し、3月始めに行った平成28年度入職者への事前指導は、アドリブも交えた熱い指導となりました。

さて、今年の新人は、始めの印象は反応も少なく、声もまばらで丈

夫かなと心配気味にスタート。しかし、指導が始まると一変!!話し手の顔をしっかりと見て、私語もなく真面目。挨拶の実演ではしっかりと声も出て感心しました。これから現場に入り色々なことを勉強し、経験していくわけですが、挨拶や身だしなみは人としての基礎の基礎。笑顔での挨拶は先輩、新人関係なく、即戦力として最大の武器になることは間違いありません。

私たちPSサポーターと共に、いいね!!といえる病院づくりが新しく

芽ばえていくことを楽しみに、これからの活動も励みたいと思います。

PS サポーター

田村 淳也

お辞儀

がバッチリ決まっています!

髪の色も規定内の色で完璧です。今後現場に出ても、この日身につけた挨拶、身だしなみを折々に振り返ってみましょう!



インドから研修に来ました！

Dr Manvendra Pratap Singh

▼衣笠統括部長(右)とともに



が、彼の手術時の展開は完璧で、関節置換や複雑性外傷の達人といえるだろう。近森の整形外科は、彼の指導のもとで益々発展していくに違いない。私はAO fellowshipで来るときに望んだ全てを得ることができた。

「出会いは始まりであり、寄り添うことは前進であり、共に歩むことは実りである(聖書より)」

マンベンドラ プラタップ シン
(原文(英語)を翻訳しています)

3月22日、AO fellowshipによる私の研修が始まった。朝8時に病院に到着するとまず衣笠医師に会った。彼はまず朝のカンファレンスへ案内してくれた。カンファレンスは毎朝8時15分ちょうどに始まり、9時ぐらいまで直近の症例や手術など、整形外科医全員で詳細を話し合う。不安な気持ちもあったがカンファレンスが終わるときには、全世界共通のAOの考え方に則っていることがわかり、安心して研修をスタートさせることができた。その後院内の見学で病棟へ向かうと、外傷治療、関節置換、関節鏡検査、再建手術等、他の病院では治療できず、近森病院を紹介された患者が、少なくとも90名ほどはいたのではないだろうか。

手術室は世界で最も優れた内の一つであるといってもよい。献身的な看護チーム、十分に訓練されたスタッフによって、90歳を超えた、複数の疾患を抱える患者が安心して手術を受けていた。整形外科の手術を同時に4～5件行うのに十分な機器や設備があった。

オルソ病院の見学では、百余りのベッドが入退院の患者でフル稼働しているのに驚き、リハ病院では、とてつもなく広い訓練室があり、設備機器を一望できた。そのなかには、日本だけではなく、全世界を含めてもユニークだといえる機器もあった。私はこんなにも素晴らしい病院を設立した近森会グループに感謝しなければならない。

近森には、衣笠医師、西田医師、上田医師、西井医師の4人の整形外科部

長がおり、彼らは手技も優秀な上に、教える心構えもできている。私は、ここで、骨の周囲の軟部組織の扱いが最も重要であると衣笠医師から学んだ

医療の仕組みを変える改定



近 森 正 幸

この数年、診療報酬改定はこれまでとは少し違っていて、前回の改定、今回、そして2年後の介護保険との同時改定は、これまでの保険点数の増減や加算がどうかではなく、医療の仕組みを大きく変える改定といえる。

急性期病院はより急性期らしく患者さんを早く治し、回復期のリハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟は障害があっても早く地域に帰っていただく、そして慢性期の療養病棟は落ち着いた患者さんが生活する場ではなく、長期で重度の患者さんを看取る場になってくる。

急性期はもちろん回復期も慢性期もそれぞれの機能に特化し、アウトカムを出していかなければ病院として存続できない時代を迎えており、これまで以上に密接な連携が求められる。

近森病院にしても救命救急センターで急性期の典型のように思われているが、高齢化で65歳以上の患者さんが8割以上を占め、75歳以上は6割を越え、長期に入院されている患者さんも少なくない。早期退院や連携を密にしてできるだけ早い転院を進めることで、より急性期にふさわしい病院にならなければならない。

高齢化が進む高知県においては、地域全体の医療のあり方を考え、急性期も、回復期も、慢性期も、互いに必死になって働き、地域医療をなんとか守っていかなければならない。

これまではそれぞれに努力してきたが、病院として存続し、職場を守っていくためには、これまで以上に機能分化し、医療機関や施設、在宅とのこまやかな連携を積極的に行う必要に迫られている。

理事長・ちかもり まさゆき

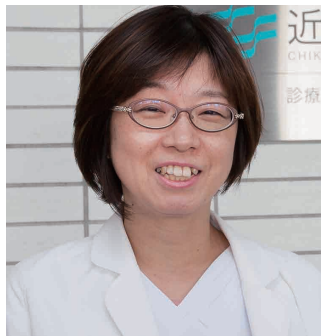
昇格 乞! 熱烈応援

初志貫徹

近森リハビリテーション病院
院長代行 和田 恵美子

平成10年に当院に着任してから、18年がたちました。そのあいだ多くの諸先輩方に指導いただき、後輩やスタッフのみなさまに支えられてきました。また大勢の患者さんやご家族の方からたくさんのお話を教えていただきました。当院は平成元年に開設していますが、初代院長のスピーチで「リハビリテーション医になろう」と思った日をいまでもよく覚えています。初心を忘れず、地域の人たちから信頼されるリハビリテーション病院であり続けるために頑張っていきたいと思ひますので変わらぬご支援のほどよろしくお願いいたします。

わだ えみこ



がんばります

画像診断部 診療放射線技師
技師長 中村 伸治

技師長と呼ばれるとなんだかこぞばゆい毎日です。判らないことがいっぱい右往左往しています。新人研修やオリエンテーションに呼ばれ、自分の言葉で話すことができず力不足を感じています。早速、装置の故障の対応に追われ、役職の重さをひしひしと感じています。先代、先々代の技師長がいかに優秀だったか、自分もしっかりと頑張らなければならないと思っています。今まで培われた近森病院の精神を引き継ぎ、あらゆる変化に対応でき、チーム医療によりいっそう貢献できるような、画像診断部にしていきたいと思ひます。皆様よろしくお願いいたします。

なかむら しんじ



20年

近森病院放射線科 看護師
主任 川村 峰子

近森病院に入職して今年で20年になります。こんな日が来るとは思っていませんでしたが、今まで先輩や同僚、他スタッフの方々の支援があり頑張ってきたと思っています。他部署との連携を図りながら円滑で安全な検査・治療に取り組めるようチームワークを大切に頑張りたいと思ひます。よろしくお願いいたします。

かわむら みねこ



今までと変わらず、しかし責任をもって…

画像診断部 診療放射線技師
主任 門脇 圭治

ずっと心の中に置いているのは、先生、看護師さん、他の職種の方々の仲介役になれればいいなと、考えています。これからは主任として、自分だけでなく後輩たちにも伝えていかなければいけない!と思っています。

これからも変わらず気軽に声をかけてくれたら嬉しく思ひます。尚、私は声をかけて行くと思ひます!

かどわき けいじ



皆で協働して

近森病院ICU 看護師
主任 山中 京子

CCUから集中病棟で勤務し、早12年が経ち、たくさんの経験をさせていただきました。先輩、同僚、若いスタッフの支えがあったから今日の自分があるのだと感謝しています。

自分らしく、患者さんやご家族への質の高い看護が提供できるように、師長、先輩主任はじめ、病棟スタッフと協働して取り組んでいきたいと思ひます。宜しくお願いします。

やまなか きょうこ



今こそ、「初心」

臨床栄養部 管理栄養士
主任 宮島 功

スタッフの8割が県外出身者です。みんな「近森病院で栄養サポートをしたい!」という、熱い想いと高い目標を掲げ高知に来ました。私も近森病院のNSTに憧れて高知へ移り住み7年が経ちました。

スタッフのみんなが、近森病院に入職した日の「初心」を忘れずに、志を持って働き続けることができる職場環境を作りたいと思ひます。

みやじま いさお



昇格 乞! 熱烈応援

新体制の臨床検査部です

臨床検査部
副技師長 橘 知佐

4月より臨床検査部の技師は65名となりました。今までの組織形態を見直し、生理検査部門と検体検査部門（細菌、輸血、病理）の2チームを柱に①技師1人1人が専門性をもつこと②検査室を出て臨床現場に出ること③医師が医師の仕事に専念できるように技師は診療支援を行うこと、を目標にさらに専門性の高い技師のチームとしてスタートしたいと思います。

入社してから早18年が経ちましたが、これまでの経験を生かしながら医療現場の様々な変化に柔軟に対応できるよう、新しい発想で未来を見越した臨床検査部を作りたいと思います。

たちばな ちさ



チーム医療を大切に

臨床検査部
副技師長 近澤 香奈

この4月より、臨床検査部も新たな体制で始まります。私が、入社当初は7名だった生理検査室ですが、今ではスタッフも38名の大所帯となりました。今後は、それぞれの職種が専門性を発揮し、患者さんに良い医療を提供できるような環境作りができるよう取り組んでいきたいと考えています。今回、副技師長の辞令を頂き、身の引き締まる思いですが、気負わずに、一歩ずつ着実に歩んでいけるよう、より一層努力していきたいと思います。今後も皆さまのご協力を頂きながら頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ちかざわ かな



多くの方に支えられ

臨床検査部
主任 筒井 昌代

今まで多くの方に支えられてきたことに感謝して、さらに知識の習得に励み、これからも一層引き締め、皆様のお役に立てる検査ができるよう頑張っていきたいと思います。

またスタッフが少しでも働きやすい環境づくりができるよう協力していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

つつい まさよ



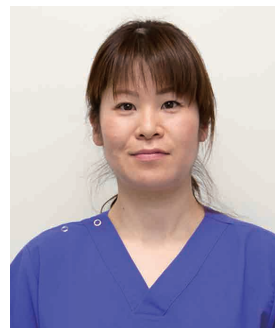
地道に

臨床検査部
主任 近藤 昇子

近森病院に就職して十数年。気がつくとも臨床検査部は60人を超す大所帯になっていました。仲間が増え、検査件数が増え、忙しいなか今まで働くことが出来たのも、周囲の方々に助けていただいたおかげだと感謝しています。

今までできてもらったことが自分にできるのか不安もありますが、気を引きしめ地道に頑張っていこうと思います。

こんどう あきこ



責任感

臨床検査部
主任 山本 綾

輸血部門では患者さんと直接接することはありませんが、チーム医療の一員として患者さんに安全で適正な輸血を提供できるよう日々努めております。

今回、主任心得の辞令をいただき、重責を担うことに身の引き締まる思いです。まだまだ力量不足ですが、責任を果たせるよう頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

やまもと あや



日々成長できるように

臨床検査部
主任 吉永 詩織

入職して10年目になりました。臨床検査部の仲間や近森会のたくさんのスタッフのみなさんに支えられ、日々楽しく充実した毎日をご過しております。

今回主任心得の辞令をいただき、今の自分にこの役割が果たせるのか不安ではありますが、これからもみなさんに協力していただきながら精一杯がんばっていききたいと思います。

よしなが しおり



気持ちを新たに

高知ハビリテーリングセンター
健康・栄養部 主任 正司 大

病院勤務を経て、当施設に配属となり4年が経ちました。障害者支援という未経験の分野で、利用者の「自立・自律」に向けてどう支援出来るかを模索する毎日です。

新部署発足にあたり、脳血管疾患の再発防止や生活習慣病の改善等、退所後も健康で自立した社会生活が行えるよう、積極的に情報発信をしていきたいと考えています。

しょうじ はじめ

出張報告

2016年2月19～22日

Spine Skills Training Course in Hong Kong に参加して

近森病院整形外科

科長 井ノ口 崇



香港で開催された脊椎低侵襲手術(MiSt)のcadaver trainingに参加しました。日本各地から6名、北京から2名参加し、献体された方のお体に実際に使用するスクリューなどを用いて手術をさせていただきました。

舞台となった香港中文大学プリンスオブウェールズ病院は、1,200床の巨大な病院で、施設がとても充実しており、スタッフの心配りも素晴らしく快適な環境で学ぶことができました。コース責任者のKin-on Kwok先生は、お茶の水博士のような風貌の紳士で、香港におけるMiStの第一人者とのことでした。講師の日本鋼管病院大森先生、聖隷浜松病院の佐々木先生は、MiStのエキスパートでありたいへん多くのことを学びました。

コースは2日間開催され、初日は後方からのアプローチで片側から除圧操

作と椎体間固定を行い、その後経皮的に経椎弓根スクリュー固定を行う手術を行いました。経皮的スクリュー固定法は、外傷などで広く応用が効く優れた手技であると感じました。2日目は、近年トピックになっている側方侵入による椎体間固定を行いました。側方からのアプローチを行ったのは初めてで、皮膚から横突起までの距離感、腹膜の用手的な剥離の仕方、大腰筋と尿管との位置関係、大腰筋内での腰神経叢の見え方、開創器の適切な使用法などなど、目からウロコの手技ばかりでした。

ホテルとラボとの往復のみで、観光するひまは全くなかったのですが、夕食会場から見えた夜景が綺麗でした。留守中、担当患者さんを守ってくれた同僚の先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

いのくち たかし



ハッスル研修医

めぐる春



初期研修医 三崎 真沙実

近森病院で社会人として働き始めて1年が経過し、心身ともに蘇る春が再びめぐってきました。去年の春、何も分からない状態で働き始め、大学時代に学んだ知識も現実の医療の前では役に立たず、自分の無知や無力さに落ち込むことが多々ありました。そんな時、先生方やスタッフの皆さんにいつも優しく、時に厳しく見守られ、丁寧に指導していただきました。また、高知に来て7年目、新潟出身の私には方言が難しく、コメディカルの方に通訳していただくことが多々あり、日々の仕事を進められているのも周りの皆さんのおかげであると、温かく支えて下さることに感謝しております。

知力と努力、体力、精神力が求められますが、あと一年多くの仲間、新しい後輩と共に切磋琢磨し、再びめぐってくる来年の春には2年前とは違う自分であるよう日々精進していきたいと思います。今後とも熱いご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

みさき まさみ

看護師採用試験

2017年度 看護職員採用試験

近森会グループ

私たちと一緒に看護しませんか？

CHIKAMORI HEALTH CARE GROUP

※中選採用希望の方は、お手数ですが近森病院 看護部長室までご連絡ください。

採用 5/28 8/6 11/26 2/24

試験日

【採出先】
近森会グループ 看護部長室までご連絡ください。
近森病院 看護部 看護部長室まで
【応募先】

※詳細は近森会グループのウェブサイトに掲載しています。

新人看護師振り返りの会

2016年3月12日

病院全体で
新人看護師を育てる

近森病院教育担当

副看護部長 森本 志保



この研修は今年度最後の新人研修で、これまで頑張ったことを振り返るとともに、2年目に向けての取り組みを報告し、次年度への課題を確認し合う場としています。

新人看護師からは現場において多くの困難があっても先輩の助言や支援があり、これまで頑張れたことへの感謝

の気持ちが語られていました。また、先輩からは励ましのメッセージカードが贈られ、そのメッセージはとても温かく、これからの成長の支えにもなると感じられるものでした。

研修の最後には、1年間の研修の振り返りのDVDを見、成長を共に確認し、笑顔で研修を終えました。今後も

「病院全体で新人看護師を育てる」ことを基本とし、新人看護師が安心して成長できるように、そして、新人に関わるスタッフも共に成長できるように支援していきたいと思います。

もりもと しほ

踊り子募集！ 2016年 よさこいチーム 「ちかもり」

「第63回よさこい祭り」の夏がきます。一緒に Kochi の夏を踊り尽くしましょう。

● 応募資格 ●

近森会グループ職員、職員家族
近森病院附属看護学校学生
関連会社職員

※5月初旬から募集を開始します。

祝！
7回連続
出場



撮影・宮崎延裕

近森会 保育室 そると そると卒園式

●今年も足長おじさんより絵本を卒園児全員にいただきました。



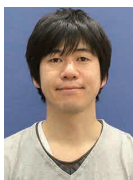
平成28年度新入職員のみなさん 一緒にがんばりましょう



廣橋健太郎

ひろはし けんたろう

①呼吸器外科科長②和歌山県③高知大学④学生時代にはヨットに乗っていましたが、最近の趣味といえばイヤイヤ期真っ盛りの息子と遊ぶことでしょうか。



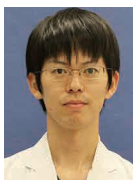
上村 直

うえむら すなお ①外科②和歌山県③高知大学④消化器外科、特に肝胆膵領域を中心に診療にあたってきました。



田中 千晴

たなか ちはる ①整形外科②岡山県③香川大学④初めての高知を楽しみつつ、お酒を飲みすぎないように気をつけたいです。



田井 龍太

たい りゅうた ①心臓血管外科②高知県③高知大学④2年間、姫路で外科研修を終えて戻ってきました。病院も大きく変化しており、びっくりです。お久しぶりの方も初めましての方もよろしくお願いします。



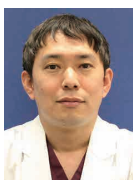
大澤 直人

おおさわ なおと ①循環器内科②奈良県③高知大学④特技はダイビングと三線演奏です。唄って走って潜れるDrを目指します。



矢野 千春

やの ちはる ①循環器内科②高知県③高知大学④趣味はロードバイク、一眼レフカメラ、ドライブ、映画・クラシック鑑賞、ワインです。おすすめがあればお声をかけてください。



浦田陽一郎

うらた よういちろう

①リハビリテーション科②四万十市中村③高知大学④趣味は手品をすることです。気軽に声をかけてください。



初期研修医 前列左から (以下同じ)



前列●太田 雄飛 おおた ゆうひ①初期研修医②千葉県③久留米大学④子供の世話が好きです。医療でも病気で苦しむ世界中の子供の先生であり、優しいお兄ちゃんを目指します。

大貫 慧介 おおぬき けいすけ①初期研修医②神奈川県③高知大学④空手で全日本選手権に出たり、ラグビーを嗜む程の武闘派です。最近は路線変更して 明治のチョコレート検定合格を目指しています。

金子 昌憲 かねこ まさのり①初期研修医②高知市③東邦大学④メリハリがはっきりしているとよくいわれます。やる時はとことんやり、遊ぶ時はとことん遊びます。スタートをしっかりしていきたいと思っています。

木田 遼太 きだ りょうた①初期研修医②宮城県仙台市③徳島大学④野球選手の岩隈選手に似ているといわれます。水泳と登山が好きです。不器用ですが精一杯やります。

竹之熊 哲也 たけのくま てつや①初期研修医②兵庫県神戸市③島根大学④神戸で生まれ育ち、大学生活は島根で過ごし、高知にたどり着きました。高知でおいしい店があれば教えてください。卓球もします。

西田 一平 にしだ いっぺい①初期研修医②高知市③高知大学④大学では卓球と軽音をしていました。最近はカメラを勉強中です。新しいことにどんどん挑戦して、たくさんの人と関わっていききたいです。

後列●橋田 侑樹 はしだ ゆうき①初期研修医②南国市③高知大学④大学6年間ゴルフをやってきました。クラブ、スイング

について考えること、読書が趣味です。当面はダイエットの方法を考えます。

平野 孝士 ひらの たかし①初期研修医②神奈川県藤沢市③横浜市立大学④神奈川県藤沢市生まれ、高校・大学は横浜で、生粋の神奈川県民です。趣味はギターです。近森で広い人間関係を築かせていただこうと考えております。

溝渕 周平 みぞぶち しゅうへい①初期研修医②高知市③高知大学④身体を動かすことが好きで、サッカー、ソフトボール、バドミントンと様々なスポーツに打ちこんできました。今後も新たな夢中になれるスポーツを探したいと思います。

横田 真二郎 よこた しんじろう①初期研修医②高知市③高知大学④小さい頃からサッカーをしていたので、体力には自信があります。時間が空いたらランニングをするのが趣味です。

竹森 大悟 たけもり だいご①初期研修医②高知市③高知大学④趣味はテニスとプロ野球観戦(広島カープ)です。体を動かすことが好きなので、今後はゴルフにも挑戦したいと思います。

西村 拓哉 にしむら たくや①初期研修医②高知市③高知大学④小学校のころからいろいろなスポーツをしてきたので、体を動かすことが好きです。大変なときこそ成長できると思い、日々歩んでいきたいです。

高崎 元樹 たかさき もとき①初期研修医(2年目)②高知市③高知大学④趣味はゴルフ、ボウリング、釣りなどです。ボウリングは、200を目指している真っ最中です。

▼講師の長崎大学大学院
医歯薬学総合研究科循環器
内科学教授 前村浩二先生



睡眠・サーカディアンリズムと生活習慣病 ～体内時計の視点から～

近森病院循環器内科

部長 深谷 眞彦

サーカディアンリズム(概日リズム)は我々が持っている24時間周期のリズムで、内在する体内時計で調節されています。

体内時計といえば頭にある中枢時計を考えますが、心臓や腎臓など多くの組織にも末梢体内時計が存在しており、その乱れは生活習慣病など多くの

疾患と関係があるようです。

体内時計を考慮した薬物の服用をするかしないかで、その効果や副作用発現も異なるようです。地球上に生きるヒトにとって、自然のリズムに沿った適度な睡眠、朝の光刺激、朝食といった規則的な生活は大切ですが、夜間シフトワーカーの健康管理にも、時間生物学の知識を生かすことが必要そうです。

時差ボケによる睡眠不足や体内時計のズレを修正する目的では、メラトニン受容体作動薬系の睡眠薬が向いているなど、睡眠に関するお話しも多くて、たいへん勉強になりました。

ふかたに まさひこ



ザ・RINSHO

医療福祉部 5

地域につなぐ 担当者会の役割

近森リハビリテーション病院

医療相談室主任 恒石 千寿代



近森リハビリテーション病院では、病気や怪我のため後遺障害が残っても、住み慣れた地域で自分らしく生活できるよう、支援しています。そのために医療福祉部のソーシャルワーカーは、地域との情報の交換を密にしながら患者さんの生活への支援を一緒に考えます。

退院前に行う担当者会には、患者さん、家族、病院、地域スタッフが参加します。地域のスタッフは、退院後の生活を直に支えてくれる方々です。その担当者会は、一言でいえば退院後に「誰が」、「何を」、「どのようにして」支援していくかを、皆で共有し最終確認をする場です。

患者さんは、病院と地域のスタッフとのやり取りを静かに聞かれています。そして手すりが付いたことや福祉用具の準備が整ったことを改めて知り、家のような思い浮かべています。また、「この人が通所先にいる人か」とか「この人が自宅に来てくれる人か」と家で生活をひとつひとつ具体的にイメージしていきます。

会の開始時には緊張していた患者さんが最後には安心した表情を見せてく

れたとき、しっかりと地域につながったと感じます。

つねいし ちずよ

ワイン講座 ● 42

ぶどう品種を知り、個性を探る 黒ぶどう その19

スペイン篇 ヴェルデホ

ヴェルデホは、スペインの高級白ワイン用として注目されているぶどう品種のひとつです。

その産地は、スペイン真中より少し上に位置するリベラ・デル・ドゥエロとトロの間に位置するルエダ地区で、とても乾燥しており、夏と冬の気温差、昼と夜の気温差が大きい大陸性気候で、砂地が多く、ヴェルデホ種の白葡萄栽培に最も適した地域で何世紀にも渡り白ワインが造られています。

しかし、ここでは、葡萄畑がフランスのブルゴーニュ地方のように細分所有されているために、ワインの生産も非効率による不利益を受け、

ルエダ・ブランコ「クエスタ・デ・オロ」／エルマノス・リュルトン／スペイン、カスティーリャ・イ・レオン州、ルエダ地区●クエスタ・デ・オロとは、黄金の丘の意。樽を使用したリッチでふくよかなワイン。たっぷりとした丸みのある果実の風味で、まさにブルゴーニュの上級白ワインを連想させるスタイル。

現在では半数以上にのぼる葡萄樹が消失しています。しかし、近年、ルエダの辛口白ワインは注目すべき帰還を果たしています。

リーズナブルなものは、香り豊かで若々しく、爽快感があるキレのあるタイプ。トップクラスのものは高価なシャルドネをイメージさせてくれるスタイルで、濃縮された果実感、オーク樽で発酵や貯蔵を行い、リッチな風味に仕上げられています。



鬼田知明 (有限会社鬼田酒店代表)

私の趣味

鮎を追って引っかける
「しゃくり」

近森リハビリテーション病院
理学療法士 高橋 歳弘



直径1～2cm、長さ2cm程の竹竿の先に釣り針を取り外し式に仕掛け、川の中に潜って鮎を追って引っかける「しゃくり」という超原始的な漁法を皆さんご存じですか？元々クエを手鋸で突きたい（※高知県では禁止されています）とネットで検索中に僕も知りましたが、高知ではメジャーな遊びのようです。

釣具屋に行って話を聞くと「素人では無理やからやめたがまし」といわれました。海でのボランティア活動や川下りの船頭の経験があり、水遊びには自信があったのでムキになって実際行ってみましたが、泳いでいる鮎の速さが尋常ではなく射程圏内には入ってきません。それからは仕掛けや鮎の習性などネットや知人から情報収集しなおし、時には人生の大先輩からも教えを請いました。

シーズン中は半日川に潜りっぱなしということもあり、今では多い日は40匹ほど獲れるようになりました。掛かった瞬間ぐぐっと水の抵抗を受け、きらきらと黄金色に光ったからだを手繰り寄せ、獲物が逃げないよう必死に掴んで腰に下げた巾着袋にようやく入れた時の嬉しさはたまりません。しゃくりは3～4名でやる方が掛け率が上がります。興味のある方ぜひ一緒にやりましょう。

たかはし としひろ

お弁当拝見

43 オムライスのお弁当



近森オルソ
リハビリテーション病院
4階病棟看護師 高芝 真智子



娘が保育園時代、お弁当の日のクエストといえばオムライス弁当でした。

小さいお弁当箱にオムライスを入れたら、それだけでいっぱいになります。おかずはどうしようかと頭を悩ませたものです。しかし、娘が空っぽのお弁当箱を笑顔で持って帰ってくる姿が嬉しかったことを思い出します。

小学生になりすっかりお弁当を作る機会も減りましたが、またオムライス弁当を作って娘とお出掛けした



いと思っています。

たかしば まちこ

図書室便り (2016年3月受入分)

- Surgery of the Hip / Daniel J. Berry (他編)
 - Mann's surgery of the foot and ankle 9th ed. Vol.1,2/Michael J. Coughlin (他編)
 - 主任看護師お悩み解決！思考と行動／森田汐生
 - 病院再編・統合ハンドブック破綻回避と機能拡充の処方箋／東日本税理士法人 (他編)
 - 税務調査で使える内部統制のつくり方
 - 税務コーポレート・ガバナンス／土田義憲
 - 平成28年 株主総会の準備実務・想定問答／日比谷パーク法律事務所 (他編)
 - 平成28年度税制改正マップ／あいわ税理士法人 (編)
 - 会計学入門 会計・監査の基礎を学ぶ第4版／千代田邦夫
 - IHE(Integrating the Healthcare Enterprise) 超入門／日本IHE協会普及推進委員会 (編)
- 《別冊・増刊号》
- 別冊・医学のあゆみ心筋症 update／山本一博 (編)
 - 老年精神医学雑誌増刊号Ⅰ 認知症の診断・臨床・治療とケア、認知症の人の Well-being／斎藤正彦 (他編)

2016年3月の診療数 システム管理室

近森会グループ

外来患者数	19842人
新入院患者数	957人
退院患者数	961人

近森病院（急性期）

平均在院日数	16.27日
地域医療支援病院紹介率	63.49%
地域医療支援病院逆紹介率	131.75%
救急車搬入件数	538件
うち入院件数	273件
手術件数	447件
うち手術室実施	329件
うち全身麻酔件数	193件

● 2016年3月 県外出張件数 ●
件数 60件 延べ人数 118人

編集室通信

今月末の引越しをもって、「近森病院6カ年建築計画」が無事終了する。期間中に建物10個の新築・改修に携わり、途中で病院統合手続きや、震災による人夫・資材確保に努めた。これほどダイナミックな経験をさせてくれる法人は、まずない。20年分の仕事を終え、いざヨーロッパへ……。危ないのでやめよう。

Ratti

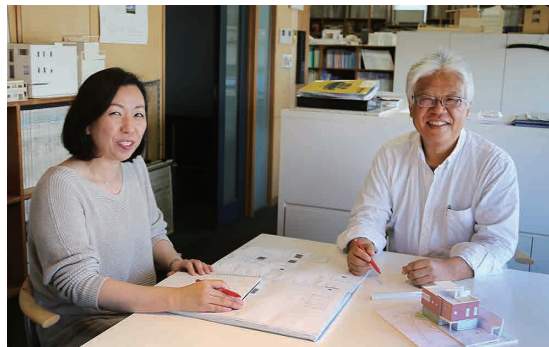
「こだわり」を持たないことに 「こだわり」を持つ学究の徒



◀身体を動かすことが好きなので趣味は「アウトドア系」。通勤は「はるばる」自転車です！

▼一般住宅の需要も相変わらず多い。近森会を担当の中村真紀さんと打ち合わせ

▼▶一般住宅の代表例。20坪弱でも、このゆったり感。狭い空間をいかに豊かに変えるか、楽しい挑戦が続く



既成概念を一から考え直したい

どのような空間に身を置くか。そこに住む人が空間をどう捉え、どう過ごすのか。その一端を担うのが建築家の仕事ともいえるのではないだろうか。

はりまや橋から東へ電車で僅かに15分弱、国分川沿いに水と緑の豊かな空間が広がる。そのすぐ先に THINK 建築設計事務所がある。壁面は資料で覆われ書類も山なのに、なぜだかスッキリ見える一角に、応接コーナー。溢れる光に妙に癒される。

そこに、どっしり構えた山本副所長。「天井板がベニヤだとしたら…」、副所長はチラッと天井を見る。「逆にヒノキで覆われているとしたら…。建築材料は一定の意図をもって社会的に意味づけを重ね今日に至っている。高価な材料を寄せ集めたら見映えの良い一流の建築物ができるという発想そのものが幻想ではないか。そういう、いつの間にか出来上がってきた既成概念を一から考え直してみたいと思う」。

固定化した日常からの解放

山本副所長の建築論は、こんな言葉で始まり、湧き上がるような勢いで続く。「既成概念を見直したいからと奇をてらうのではなく、ありきたりな材料を使い、それでもどこかがちょっと違うというようなものをつくりたい」。

「わかりやすく記号化されたものには安心感もあるが、それは固定化した日常にも繋がる。だから、そこから少しだけ自由なものをクライアントと一

緒につくりたい。それが住まう人の『快適な空間』になると思われるから。

建築家の『こだわり』の中で生活してもらうのではなく、あくまでも主体はクライアントの側にあるべきで、建築家の考えはしっかりとした伏線のようなものでありたいと思う。

哲学的というのか、深くて刺激的で、主張が強いようできて色を感じさせないともいうのか…。「誇大妄想狂のケがありますから」と、ちょっとシャイで、実直で生真面目で…。山本副所長との時間は瞬く間に過ぎてしまう。

「日常をどう捉えるか、何に価値を見いだすか」、そういった使い古された概念を、「考え直す行為」に繋がる話が次々飛び出す。目先の課題をどうクリアするか合意形成するか、深くあれこれ考え続けるタイプなのだろう。

合理的で多能的、かつ柔軟に

武蔵野美術大学で大学院まで学び、都内の建築事務所で4年勤務し、そろそろ独立も考え始めた頃。高校、大学の先輩だった前田博所長に、共通の恩師の祝賀会で出会い、高知の事情など相談したことが大きな転機になって、前田先輩が立ち上げて間もなかった THINK 建築設計事務所に、結局は就職することになった。

以来、前田所長の右腕を務めて、瞬く間に30年。建物設計はソフト面が非常に重要な要素の一つとなり、現場では設計内容を多種多様な職種に協力してもらい、確実に実行してもらうことが必要で「厳しい要求！」をするこ

とになる。建築の打ち合わせは、時にしつこく、くどく！ならざるを得ず、その辺りが、近森会スタッフには「キビシイ表情で声を荒げているイメージが強い人(笑)」と映るのかも知れない。

さらに、「より良い結論を得るためには、徹底して具体的で合理的に考えると同時に、『ひと』という多重で曖昧な要素を加えることも重要。多能的、かつ柔軟でなくては」ともいう。

仕事を離れると、友人に「お前がしゃべりゆうことの半分は冗談が入っちゃう」といわれる程の「笑い好き」らしい。「だからボクを怖がらないで！」(笑)。

「皆さんの住まい方をぜひ一緒に考えさせてください！」で、立派な大番頭の建築論はお開きとなった。建築という仕事の深さや醍醐味を、そのまま体現しているような山本副所長はじめ THINK スタッフの仕事ぶりは、だからやっぱり頼りになる。



平坦ではなかったこの 10 年

近森病院呼吸器内科
部長 石田 正之

▶鈴木基先生
長崎大学熱帯医学研究所
臨床感染症学分野
デニユアトラック助教



去る 3 月 4 日にパレスホテルにて、呼吸器内科 10 周年の記念報告会を開催しました。当日は来賓 4 名（長崎大学 3 名、高知大学 1 名）を含め、60 名の参加をいただきました。

開会に先立ち、近森理事長から開会および激励の言葉をいただき、また来賓を代表して、近森病院呼吸器内科開設当時のメンバーである鈴木基先生から呼吸器内科誕生の経緯などお話を

いただきました。会の半ばで、筆者よりこの 10 年の歩みとして、主に診療、学術面での成果を述べさせていただきました。

はや 10 年、まだ 10 年、この 10 年は決して平坦な道ではなく、紆余曲折がありましたが、10 年という区切りを刻むことができました。この日からまた新たな気持ちで、これからの 10 年、それ以上へ向けさらなる歩みを続けていきたいと考えています。

いしだ まさゆき



デング熱、ジカ熱、マラリアなど 蚊媒介感染症の治療を行っています。

2014 年に国内流行したデング熱は、日本でも蚊媒介感染症が生じうる可能性を示しました。加えて昨年はジカ熱の問題が報道されるなど、蚊媒介感染症の重要性が増しています。

当院では国内、熱帯地域でこれらの感染症の診療に従事した経験豊富な医師が診療を行っております。また感染症学会から蚊媒介感染症専門医療機関の認定も受けております。

デング熱、ジカ熱、マラリアなど蚊媒介感染症が疑われる症例がありましたら、お気軽にご相談ください。



新たに日本呼吸器学会と、日本呼吸器内視鏡学会専門医制度の関連認定施設になりました。



平成 28 年度 新入職員全員集合 ペンギン公園にて

